

道民・事業者のための 環境行動の手引き

平成20年4月

北海道

目次

1	はじめに	1
2	手引きのねらい	1
3	環境の現状と環境行動の必要性	1
4	環境にやさしいスタイルの提案	3
	地球を守る心	5
	道民一人一日10%(1.1kg)の二酸化炭素を減らそう	5
	オフィスや事業所の省エネルギーや省資源をすすめよう	10
	道民一人30本植樹運動を実践しよう	15
	もったいない心	16
	道民一人一日10%(80g)のごみを減らそう	16
	資源を地域内で循環する地産地消をすすめよう	20
	北海道をきれいにする清掃活動に参加しよう	23
	自然と共生する心	25
	自然のすばらしさにふれ、 身近な川や湖などを守る環境保全活動に参加しよう	25
	環境と調和した農林水産業や観光業をすすめよう	29

【参考資料】北海道の環境の概況について

1 はじめに

「『環境にやさしい行動』って、めんどろなんじゃない？」
「毎日忙しくて、環境に配慮して行動する余裕なんてないよ。」
そのように思っている方、いませんか？

環境に配慮した行動は、何も難しいことばかりではありません。
例えば、「暖房の設定温度を1℃下げる」「水の出っぱなしをやめる」など、ちょっとした心がけで今日からでも実践できることはたくさんあります。

この手引きは、私たち一人ひとりが、日常生活で、事業活動で、または地域における活動において、環境への負荷を減らすために何ができるかを考えて、自らの行動を見直し、実践するうえでの参考となるよう作成したものです。

環境にやさしい取組はさまざまです。
すぐにできるものばかりではなく、準備が必要なもの、努力が必要なものもあります。
大切なのは、最初から全部に取り組むことではなく、できることから取組を始めること。そして、その取組を継続しながら、1つでも2つでも、できることを増やしていくこと。

「まずは、やってみよう」
あなたが踏み出すその一歩が、「環境にやさしい生活」の扉を開きます。

2 手引きのねらい

この手引きでは、私たち一人ひとりが、日常生活や事業活動など日々の行動を「環境に配慮した」ものに転換していくことを目指して、環境行動の必要性を理解し、取組を実践していただくための「行動目標」と、その目標を達成するための具体的な「行動メニュー」を提示しています。

「行動目標」の達成に向けて、「行動メニュー」を参考に、日常生活や事業活動を見直し、環境行動を実践していくための手引きとして利用いただけるよう作成しています。

3 環境の現状と環境行動の必要性

私たちの生活が、豊かな自然を脅かす・・・

私たちの住む北海道は、清らかな水、おいしい空気、数多くの野生生物など、「美しく豊かな自然」に恵まれています。このような自然環境は、物質の循環や生態系の微妙な均衡のうえに成り立っており、私たちの生活も、この自然界のシステムと調和するものでなくてはなりません。

しかし、私たちはこれまで、より快適で便利な暮らしを求めて、多くのエネルギーや資源を消費し、自然の浄化能力を超える大きな負荷を環境に与えてきました。その結果、今、この恵まれた環境が脅かされています。

地球温暖化対策の鍵は、今後20～30年間の取り組み・・・

2007年に公表された気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第4次評価報告書統合報告書によると、温暖化の進行は疑う余地がなく、20世紀半ば以降に観測された地球の平均気温の上昇のほとんどは、人間の活動によって排出された温室効果ガスの増加によって引き起こされた可能性がかなり高いとされています。

また、現在の政策を続けると、世界の温室効果ガス排出量は今後20～30年増加し続け、その結果、21世紀には20世紀に観測されたものより大規模な温暖化が引き起こされ、世界の気候に大きな変化が生じる、と予測されています。

このままでは、地球温暖化をはじめとした地球環境の悪化が確実に進行し、私たちの生存そのものが危ぶまれます。

このことは、決して北海道にも無関係ではありません。

現在、温室効果ガスのほとんどを占めるのは二酸化炭素で、全世界で石油、石炭、ガソリンなどの化石燃料の消費などによって毎年排出する二酸化炭素の量は、約72億トン（炭素換算）です。

一方、自然が1年間に吸収できる二酸化炭素の量は約31億トン（炭素換算）ですから、約41億トン（炭素換算）は大気中に残ることになります。温暖化をくい止め、地球の気温を安定化させるためには、温室効果ガスの排出量と吸収量のバランスをとることが必要です。

IPCC第4次評価報告書統合報告書によれば、既存の技術と今後数十年で実用化される技術によって温室効果ガス濃度を安定化させることができ、今後20～30年間の私たちの努力が鍵となる、とされています。

今こそ、私たちの行動が必要となっています。

環境行動の実践に結びついていない道民の現状・・・

一方、道民の環境行動の現状を見てみると・・・

- ・ 環境への関心と環境保全行動について、環境への関心は高い（65%）ですが、日常生活において環境に配慮した行動の実践（44%）には結びついていません。
- ・ 環境に配慮した行動への認識については、「定期的に行う（継続する）ことは難しい」と考えている人が半数近くに上るほか、「行うきっかけがない」「時間を確保するのが難しい」「自分に何ができるのかわからない」と考えている人の割合は40%程度にもなります。
- ・ また、道内の企業における社会貢献活動・環境保全活動については、積極的に取り組むべきと考えている企業が60%であるのに対し、実際に積極的に取り組んでい

るのは37%にとどまっています。

築こう！「エコアイランド北海道」・・・

私たちの生活や事業活動は、環境に何らかの影響を与えてしまいます。環境負荷をゼロにすることはできませんが、その影響をできるだけ少なくすることはできます。

美しく、豊かな環境をより良いかたちで将来の世代に引き継いでいくために私たちが目指すべき北海道の姿、それは、環境と経済とが調和し、持続可能で、本当の豊かさが実感できる「エコアイランド北海道」です。

今こそ私たち一人ひとりが、「エコアイランド北海道」に向けて、北海道環境スピリッツ（3つの心）をもって日々の暮らしや仕事の中で環境に配慮した行動を実践し、北海道らしいライフスタイルを築いていきましょう。

北海道環境スピリッツ（3つの心）

地球を守る心：地球温暖化など地球規模の環境問題に関心を持ち、知恵と技術を活かし、地域で行動をする心

もったいない心：ものが無駄になることを惜しみ、限りある資源を大切にし、省資源や省エネルギーに取り組む心

自然と共生する心：自然や森林を守り育み、自然と調和して生きる心

4 環境にやさしいスタイルの提案

北海道環境宣言に掲げる3つの心「地球を守る心」「もったいない心」「自然と共生する心」に沿って、「環境にやさしいの行動」を提案します。

また、「環境にやさしい8つの行動」について、それぞれどのような行動を、どれだけ行えばよいのか、具体的に考え、実践するために「行動目標」と「行動メニュー」を提示しています。

「行動目標」

「環境行動をどのように実践したらいいのか」を考える際に、目標となるものです。具体的な行動や数値を示しています。

「行動メニュー」

「どのような環境行動を実践したらいいのか」を考える際に、参考となるものです。具体的な行動内容の例やその実践効果などを示しています。

環境行動のメニューは多種多様です。皆さんの年齢、性別、職業や居住地域の特色などによって、取り組み易いもの、取り組みにくいものも異なることでしょう。

そこで、皆さんの生活スタイルや地域スタイルにあわせて、「マイ・行動メニュー」を組んでみましょう。

この手引きの中の「行動メニュー」は、具体的な例示として示したものであり、全

て実践しなくてはならないというわけではありません。「行動目標」の達成に向けて、「行動メニュー」の項目の中から、どの項目を、いくつ選ぶのか、それは皆さんの自由です。

また、環境行動は、「行動メニュー」に示したものが全てではありません。他にもできることがあれば、どんどん取り組みましょう。

「行動メニュー」の代わりに、「主な行動」や「取組事例」で示しているものもあります。

地球を守る心

地球温暖化など地球規模の環境問題に関心を持ち、知恵と技術を活かし、地域で行動をする、それが「地球を守る心」です。

太陽光・風力・雪氷・バイオマスなど本道に豊富に存在する再生可能なエネルギーの積極的な取り入れや、省エネルギー型設備・機器などの環境にやさしい製品の使用、さらには、二酸化炭素を吸収する森林やみどりづくりに取り組みましょう。

【行動目標】

道民一人一日10% (1.1kg) の二酸化炭素を減らそう

暖房温度を1℃以上上げるなど設定温度の見直しやエネルギー効率の良い省エネ家電、次世代型の低公害車の利用、エコドライブの実践など省エネルギーの取組を進めるとともに、太陽光やバイオマスなど再生可能なエネルギー資源や化石燃料の中では環境特性がすぐれている天然ガスの利用などに努めましょう。

私たちの生活は、エネルギーの利用なくしては成り立ちません。日常生活のさまざまな場面で、直接的・間接的な化石燃料の消費により二酸化炭素を排出しており、道民が一人一日あたり家庭から排出する二酸化炭素は、約11kg（平成15年度）です。

地球温暖化防止に向けて、省エネルギーの取組を行うことにより、一人一日あたり家庭から排出する二酸化炭素の10%（1.1kg）を削減することを目指します。

【一人一日10% (1.1kg) の二酸化炭素削減の効果】

二酸化炭素1.1kgは、容積約578Lで、これは18L灯油タンク約32個分に相当します。全道民（560万人(平成19年)）が1年間毎日欠かさず取り組むと・・・

- ・ 札幌ドーム約748杯分（約61万トン（炭素換算））の二酸化炭素を削減できます。
- ・ 北海道地球温暖化防止計画に定める二酸化炭素排出量の目標（平成22年）を達成するために必要な削減量（平成15年度排出量と目標排出量の差）の約3割を達成することができます。

【行動メニュー】

【CO₂削減・節約効果の数値について】

効果は「1日あたり」の値で算出していますが、「1時間 する」など時間指定があるものについては、あなたが1日に取り組んだ時間を掛けて効果を算出してください。

ここに例示した数値は、国内関係機関から一般公表されている二酸化炭素排出量削減効果や二酸化炭素排出係数、ガソリン、灯油、電気、ガス、水道の料金に関するデータを基に、道が条件を設定して算出したものです。

「*」マークが付いている項目については、「家庭」としての取組と考え、1日あたりの効果を道内平均家庭人数2.15人で割り、一人あたりの効果に換算した値としています。

数値はあくまでも目安であり、家族構成や居住地域、住居の構造、使用している機器の種類など、生活環境によって異なります。

夏の過ごし方を見直そう

冷房の設定温度を1 高くする*	33g CO ₂ 削減	2円 節約
1時間 エアコン冷房をやめる*	37g CO ₂ 削減	2円 節約
1時間 扇風機を使うのをやめる*	7g CO ₂ 削減	0.3円 節約

冬の過ごし方を見直そう

暖房の設定温度を1 低くする*	521g CO ₂ 削減	21円 節約
電気カーペットは部屋の広さや用途にあったものを使用する*	118g CO ₂ 削減	6円 節約
電気カーペットの温度をこまめに調節する*	245g CO ₂ 削減	12円 節約
天井から床までのカーテンを使用する*	270g CO ₂ 削減	11円 節約
ロードヒーティングは手動運転で利用する*	753g CO ₂ 削減	30円 節約

照明の使い方を見直そう

白熱電球を電球型蛍光灯に取り替える*	53g CO ₂ 削減	3円 節約
使っていない照明を1時間消す	蛍光灯1本	19g CO ₂ 削減 1円 節約
	白熱電球1個	29g CO ₂ 削減 1円 節約

居間などでの電化製品の使い方を見直そう

1時間テレビの電源を切る	96g CO ₂ 削減	5円 節約
1時間パソコンの電源を切る	デスクトップ型	38g CO ₂ 削減 2円 節約
	ノート型	12g CO ₂ 削減 0.5円 節約
使っていない電化製品のプラグをコンセントから抜く*	82g CO ₂ 削減	4円 節約
電気ポットを長時間保温せず、お湯を使うときに沸騰させる	141g CO ₂ 削減	7円 節約

トイレでの温水暖房・洗浄便座の使い方を見直そう

暖房便座は、使わないときにはフタを閉める	63g CO ₂ 削減	3円 節約
暖房便座の設定温度は控えめにする	49g CO ₂ 削減	2円 節約
温水洗浄便座の洗浄水の温度設定は控えめにする	18g CO ₂ 削減	1円 節約

洗濯の方法を見直そう

お風呂の残り湯を洗濯に使う	18g CO ₂ 削減	13円 節約
洗濯するときはまとめて洗う	24g CO ₂ 削減	13円 節約

台所での行動を見直そう

冷蔵庫にものを詰め込みすぎない	58g CO ₂ 削減	3円 節約
冷蔵庫の温度設定を強めすぎない*	38g CO ₂ 削減	2円 節約
冷蔵庫は壁から間隔を空けて設置する*	28g CO ₂ 削減	1円 節約
冷蔵庫の扉の開閉回数を少なくする	22g CO ₂ 削減	1円 節約
冷蔵庫の扉を開けている時間を短くする	8g CO ₂ 削減	0.4円 節約
煮物などの下ごしらえは電子レンジを活用する	29g CO ₂ 削減	3円 節約
電子レンジでの温め直しをしない	6g CO ₂ 削減	0.3円 節約

ジャー炊飯器の「保温」をしない	57g CO ₂ 削減	3円 節約
食器洗いのお湯の温度を下げる	36g CO ₂ 削減	3円 節約
炎が鍋底からはみ出さないように火力を調節する	14g CO ₂ 削減	1円 節約

お風呂での行動を見直そう

シャワーの使用時間を1分間短くする	77g CO ₂ 削減	9円 節約
お風呂は間隔をおかずに入り、追い炊きをしない	218g CO ₂ 削減	18円 節約

自動車の使い方を見直そう

車に乗るのをやめる（1kmあたり）	232g CO ₂ 削減	15円 節約
アイドリングストップを行う（1分間あたり）	32g CO ₂ 削減	2円 節約
発進時にはアクセルをふんわりと踏む	636g CO ₂ 削減	42円 節約
車間距離に余裕をもって加速の少ない運転をする	127g CO ₂ 削減	8円 節約
止まるときは早めにアクセルから足を離す	127g CO ₂ 削減	8円 節約
カーエアコンの温度・風量をこまめに調節する	890g CO ₂ 削減	59円 節約
タイヤの空気圧をこまめにチェックする	127g CO ₂ 削減	8円 節約

買い物の仕方を見直そう

買い物の際には、マイバッグを持ち歩き、省包装の野菜を選ぶ	160g CO ₂ 削減	-
電化製品などを買うとき、買い換えるときには、省エネルギータイプのものを選ぶ*		
テレビ	31g CO ₂ 削減	1円 節約
冷凍冷蔵庫	57g CO ₂ 削減	3円 節約
ジャー炊飯器	4g CO ₂ 削減	0.2円 節約
電子レンジ	3g CO ₂ 削減	0.1円 節約

ごみを削減しよう

一日10%（80g）のごみの削減・リサイクルを行う【行動目標】の実践です	27g CO ₂ 削減	-
--------------------------------------	------------------------	---

（マイ・行動メニューの例）

（^o^） / 主婦Aさん（40歳）～春秋バージョン

私は、家族の中では家で過ごす時間が一番長いので、特に家事をするときには気をつけようと思います。買い物はいつも近くのスーパーまで車で行っていましたが、今後は、自転車が徒歩で行こうと思います。

使っていない照明を1時間消す（蛍光灯）	114g CO ₂ 削減	6円 節約	3本を2時間消す
1時間テレビの電源を切る	192g CO ₂ 削減	10円 節約	2時間やめる
使っていない電化製品のプラグをコンセントから抜く	82g CO ₂ 削減	4円 節約	
電気ポットを長時間保温せず、お湯を使うときに沸騰させる	141g CO ₂ 削減	7円 節約	

暖房便座は、使わないときにはフタを閉める	63g CO ₂ 削減	3円 節約	
暖房便座の設定温度は控えめにする	49g CO ₂ 削減	2円 節約	
温水洗浄便座の洗浄水の温度設定は控えめにする	18g CO ₂ 削減	1円 節約	
お風呂の残り湯を洗濯に使う	18g CO ₂ 削減	13円 節約	
洗濯するときはまとめて洗う	24g CO ₂ 削減	13円 節約	
冷蔵庫にものを詰め込みすぎない	58g CO ₂ 削減	3円 節約	
冷蔵庫の扉を開けている時間を短くする	8g CO ₂ 削減	0.4円 節約	
煮物などの下ごしらえは電子レンジを活用する	29g CO ₂ 削減	3円 節約	
食器洗いのお湯の温度を下げる	36g CO ₂ 削減	3円 節約	
炎が鍋底からはみ出さないように火力を調節する	14g CO ₂ 削減	1円 節約	
車に乗るのをやめる(1kmあたり)	232g CO ₂ 削減	15円 節約	
買い物の際には、マイバッグを持ち歩き、省包装の野菜を選ぶ	160g CO ₂ 削減	-	
一日10%(80g)のごみの削減・リサイクルを行う	27g CO ₂ 削減	-	
計	1,265g CO ₂ 削減	84.4円節約	

(^o^)/ 学生Bさん(20歳)~夏バージョン

私の場合、家に帰るのは寝るときぐらいで、料理もほとんどしませんから、とりあえず、毎日使うシャワーに気をつけようかと思えます。車が好きでよく乗っていますが、運転の仕方を気にしたことはほとんどなかったので、エコドライブにチャレンジします。

シャワーの使用時間を1分間短くする	77g CO ₂ 削減	9円 節約	
アイドリングストップを行う(1分間あたり)	160g CO ₂ 削減	10円 節約	5分間やめる
発進時にはアクセルをふんわりと踏む	636g CO ₂ 削減	42円 節約	
車間距離に余裕をもって加速の少ない運転をする	127g CO ₂ 削減	8円 節約	
止まるときは早めにアクセルから足を離す	127g CO ₂ 削減	8円 節約	
計	1,127g CO ₂ 削減	77円 節約	

(^o^)/ 会社員Cさん(50歳) ~冬バージョン

私は、朝起きてから出勤するまでと、仕事を終え帰宅してから寝るまでの間に、家庭でできることを考えてみました。自分の行動を見直してみると、テレビをつけているのに見ていなかったり、ビールやおつまみを取り出そうと冷蔵庫を長時間開けていたり、エネルギーの無駄がけっこうありました。まず、できそうなところから取り組んでいきます。

暖房の設定温度を1 低くする	521g CO ₂ 削減	21円 節約	
使っていない照明を1時間消す (白熱電球1個)	29g CO ₂ 削減	1円 節約	
1時間テレビの電源を切る	96g CO ₂ 削減	5円 節約	
1時間パソコンの電源を切る	38g CO ₂ 削減	2円 節約	
暖房便座は、使わないときにはフタを閉める	63g CO ₂ 削減	3円 節約	
温水洗浄便座の洗浄水の温度設定は控えめにする	18g CO ₂ 削減	1円 節約	
冷蔵庫の扉の開閉回数を少なくする	22g CO ₂ 削減	1円 節約	
冷蔵庫の扉を開けている時間を短くする	8g CO ₂ 削減	0.4円 節約	
シャワーの使用時間を1分間短くする	77g CO ₂ 削減	9円 節約	
お風呂は間隔をおかずに入り、追い炊きをしない	218g CO ₂ 削減	18円 節約	
一日10%(80g)のごみの削減・リサイクルを行う	27g CO ₂ 削減	—	
計	1,117g CO ₂ 削減	61.4円 節約	

【行動目標】

オフィスや事業所の省エネルギーや省資源をすすめよう

ウォーム・ビズやクール・ビズなど控えめな冷暖房の実施や、節電など二酸化炭素の排出を抑制する取組を進めます。また、省エネルギーの取組や新エネルギー利用設備・機器の開発・導入、製造工程での廃棄物を利用するゼロエミッションなど環境の負荷を低減する取組を進めましょう。

北海道で排出される二酸化炭素のうち、事業活動に伴う排出は約70%、オフィスでの活動に伴う排出は約13%です（平成15年度）。また、一般廃棄物の約35%はオフィスから排出されています（平成17年度）。

オフィスにおける照明、パソコン、コピー用紙等の使い方を見直すとともに、ウォーム・ビズやクール・ビズ、環境に配慮した製品の購入などの環境負荷を低減する取組を進め、オフィスからの二酸化炭素・ごみ排出量の削減を目指します。

また、省エネルギー型設備・機器や新エネルギー利用設備・機器の開発・導入、物流や製造等に係るエネルギー効率の向上、生産・加工工程等で発生する副産物や循環資源の再利用・リサイクル、商品販売における簡易包装などによるごみの発生抑制などを進め、事業活動に伴う二酸化炭素・ごみ排出量の削減を目指します。

【主な行動】

（オフィスでの取り組み）

室内、廊下等の照明の使い方を見直そう

支障のない範囲で、日中は窓側の照明を消灯する
支障のない範囲で、昼休みは照明を消灯する
使用していない部屋は消灯する
残業時には不必要な照明を消灯する
会議室、トイレ、給湯室等は、未使用時には消灯する

パソコンの使い方を見直そう

節電モードの設定を行う
昼休み中は電源を切る
外勤等で長時間使用しないときは電源を切る
退社時には、ノートパソコンの電源プラグを抜く

その他の電気製品の使い方を見直そう

退社時には、電気ポット、温水暖房便座等の電気機器の電源を切る
会議室使用後は、電気機器の主電源を切る

紙の使い方を見直そう

片面使用済用紙をコピー機、FAX、プリンター等で再利用する
会議資料等の両面コピー、両面プリントを徹底する
電子メールの利用、資料のペーパーレス化・共有化によりコピー枚数を減らす

環境に配慮した製品を購入しよう

事務用機器等の購入やリースにあたっては、省エネルギー型の商品を選定する
エコマークなどの環境ラベル認定商品や、グリーン購入ネットワークデータベース掲載商品、リサイクル製品など、環境に配慮した製品を購入する
車の購入やリースにあたっては、低公害車など、温室効果ガス排出量の少ない車両を選定する

ごみについて見直そう

物品はできるだけ修理しながら使用し、ごみの排出を抑制する
ごみの分別を徹底し、資源ごみのリサイクルと資源化できないごみの減量化を進める

エレベーターの使い方を見直そう

3階程度の上り下りは階段を利用する

車両の運転を見直そう

車をなるべく使わない
エコドライブを行う
(例)
・アイドリングストップを行う
・発進時にはアクセルをふんわりと踏む
・車間距離に余裕をもって加速の少ない運転をする
・止まるときは早めにアクセルから足を離す
・カーエアコンの温度・風量をこまめに調節する
・暖気運転の時間はなるべく少なくする
・出かける前にあらかじめ行き先や走行ルートを計画する
・タイヤの空気圧をこまめにチェックする
・不要な荷物を積まない
・交通の妨げになる違法駐車をやめる

環境負荷を低減する取組を実施しよう

夏はクール・ビズ、冬はウォーム・ビズに取り組む
ノー残業デーを実施する
自家用車通勤を控えるノーマイカーデーを実施する
在宅勤務制度を導入する

施設管理での取り組み

施設の維持管理を見直そう

ISO、HES（北海道環境マネジメントシステムスタンダード）、エコアクション21などの環境マネジメントシステムの認証を取得する
環境配慮の取組状況を定期的に点検し、エネルギー使用量や廃棄物発生量などの現状を把握する
ESCO事業の実施やBEMS（ビルエネルギー管理システム）の導入などにより、建築物の省エネルギー化を進める

<p>省エネルギー型設備・機器や新エネルギー利用設備・機器などを導入する (例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コージェネレーションシステム ・雪氷冷熱エネルギー使用設備 ・天然ガス使用設備 ・太陽光発電設備 ・バイオガス発電設備 ・風力発電設備 ・温泉・温排水利用設備 ・燃料電池 ・ヒートポンプ ・熱交換器 ・蓄熱式空調システム ・高効率・省エネルギー照明設備 ・バイオエタノール、BDF、木質ペレット等のエコ燃料利用機器 ・自動制御設備(インバータ制御、VAV制御、VWV制御等) ・急激な負荷変動を低減するアキュムレーター など <p style="margin-left: 40px;">* VAV制御：送風機の電力量を節減するため、各ゾーンを最適風量に設定し、空調機風量の回転数制御を行う。</p> <p style="margin-left: 40px;">* VWV制御：ポンプの電力量を節減するため、変水量送水圧設定制御を行い、空調負荷が低いときには、設定圧力を下げるようポンプの回転数制御を行う。</p>
<p>空調は、外気温度などを考慮して適切な温度管理を行い、不必要な使用を控える。 (例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空調の温度管理にあたっては、業務に支障のない範囲で、夏は高め、冬は低めに設定する(冷房28、暖房20など) ・外気温度等を考慮して、空調の間欠運転を行ったり、使用期間・時間を制限する ・部分空調方式を採用するなど、空調範囲を制限する など
<p>人の通行の多い出入り口には風除室を設け、暖房・冷房の効率を高める</p>
<p>照明は、日照時間等を考慮して適切に管理し、不必要な使用を控える (例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・季節ごとに日照時間等を考慮して、照明の点灯・消灯時刻を調整する ・頻繁に使用しない場所等の蛍光灯や電球を間引きする など
<p>看板、広告塔等の過剰なネオン、照明は控え、日照時間等を考慮して、使用時間を設定する</p>
<p>エレベーターは、適切に管理し、不必要な運転を控える (例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者が少ない時間帯は、使用台数を制限する など
<p>食品の冷蔵冷凍ショーケースを適切に管理する (例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過度に冷やしすぎないなど、適正温度で使用する ・閉店時には、ショーケースにカバーをかけ、冷気漏れを防ぐ
<p>敷地内や建築物屋上の緑化、緩衝緑地帯の整備などに努める</p>

〔事業活動での取り組み〕

製品設計、製造・施工を見直そう

使い捨てではなく、長期間使用できる商品を提供する
耐久性にすぐれた工法を採用する
リサイクルが容易な構造設計を行う
高断熱・高气密などを考慮した、北国の気候風土に適した設計を行う
CASBEE（建築物総合環境性能評価）や環境共生住宅認定の取得など、環境に配慮した建築を進める
製品には、使用素材や適切な廃棄方法などを記載する
製造工程の効率化を図り、廃棄物発生量を低減する
エネルギー効率の高い製品や、新エネルギーを利用する製品などを研究・開発する
環境負荷が少なく、耐久性の高い工法や資材を研究・開発する

原材料の選定や調達を見直そう

循環資源を原料としているもの、生分解性のもの、燃やしても有害物質が発生しないもの、廃材の発生が少ないもの、リサイクルが容易なもの、耐久性にすぐれているものなど、環境負荷の少ない原材料を選定する
輸送にかかるエネルギーの少ない、地元で生産されている原材料の調達を進める
炭素の貯蔵庫であり、森林の育成に寄与する道産木材の利用を進める
生産量や売上げの見通し、在庫量を考慮した調達計画を立て、無駄な調達をなくす

輸送や物流を見直そう

効率的な配送ルート、配送時間の設定を行い、走行距離・時間を短縮する
都市間の長距離幹線輸送や、交通の混雑する都市内での輸配送を他社、関連会社などと共同で行う
帰り荷の確保に努めるなど、空荷走行を低減する
中長距離輸送にあたっては、鉄道や海運を利用する（モーダルシフト）
アイドリングストップ装置など、環境負荷を低減する装置を取り付ける
梱包資材には、再利用、再生利用が可能なものを使用する
車両のタイヤの空気圧を適正に保つなど、定期的な点検、整備を行う

広告を見直そう

チラシ、パンフレット等の過剰な発行は控える
チラシ、パンフレット等の作成にあたっては、再生紙や植物油を使用したインクなどを使用する

環境に配慮した製品の販売促進を進めよう

環境に配慮した製品について、特設コーナーの設置や、省エネ効果等の掲示などを行う
環境に配慮した商品の割引期間やノーレジ袋の日の設定など、環境配慮に関するキャンペーンを実施する

レジ袋の削減を進めよう

レジ袋辞退のポイント制度やノーレジ袋の日の実施など、レジ袋の辞退へのインセンティブとなるしくみを設ける
適切な大きさ、枚数のレジ袋を従業員から手渡すなど、レジ袋の過使用を防ぎ、使用量を削減する
マイバッグの販売や、そのまま自宅に持ち帰ることができる商品かごのレンタルを行う
レジ袋の厚さを薄くし、レジ袋原料の使用量を削減する
不要となったレジ袋を店頭で回収し、再資源化する

容器・包装材の削減を進めよう

商品をばら売りや量り売りすることにより、トレーやパックなどの包装材を削減する
自宅用・贈答用、店内での飲食・持ち帰りなど目的にあわせた容器・包装を使用する
商品の包装は、簡易包装に努める

資源の回収を進めよう

資源ごみ回収ボックスを設置する
使用済みの製品や部品などは、回収ボックスを設置するなどして、自主回収する

循環資源等の再利用、リサイクルを進めよう

分別を徹底する
仕入れ、生産・加工工程、施工過程などで発生する副産物や、循環資源等を再利用・リサイクルする

アフターサービスを進めよう

修理、アップグレードサービスの提供などにより、製品の長期間使用を支援する

【行動目標】

道民一人30本植樹運動を実践しよう

結婚や子ども誕生記念などさまざまな機会に、植樹活動への参加したり自宅の庭などに木を植えるなど、身近なみどりづくりに参加しましょう。

私たちは、呼吸により生涯で6.4トンの二酸化炭素を排出しています。

道民一人が一生涯に呼吸により排出する二酸化炭素の吸収を新たな植林などにより確保できるよう、道民一人が一生涯に30本の樹木を植え育てることを目指します。

【道民一人30本植樹の効果】

道民一人が生涯（道民の平均寿命80年）に呼吸により放出する二酸化炭素は、炭素重量で6.4トンで、その二酸化炭素を全て吸収するために必要な樹木の本数は、約30本になります。

現在の道民560万人（平成19年）一人ひとりが『道民一人30本植樹運動』に取り組むと・・・

- ・今後5年間で1,000万本、札幌ドーム約2,000個分（面積）の森林を育てることに相当します。

1ヘクタールあたり1,000本の植樹、札幌ドーム約5ヘクタールで換算

- ・植え育てた樹木が1年あたりに吸収する二酸化炭素の量は、全道民が1年間に家庭から排出する二酸化炭素量の約0.03%に相当します。

5年間で植樹した1,000万本の樹木が吸収する二酸化炭素量は1万トン（炭素換算）で、

1年あたり2,000トン（炭素換算）

全道民が1年間に家庭から排出する二酸化炭素は614万トン（炭素換算）

【行動メニュー】

自宅の庭や所有地などで樹木を植え育てる

植林イベントや森林ボランティア活動に参加する

植林イベントを企画・開催する

【取組の機会（機会づくり）の例】

<家庭>

- ・結婚、子ども誕生、受験合格、就職、成人、還暦などの人生の節目に
- ・結婚記念日、家族の誕生日、などの記念日に
- ・自然とのふれあい行動の一つとして など

<地域>

- ・学校行事や授業の一環として
- ・町内会の行事として
- ・企業等の環境貢献活動の一つとして など

もったいない心

ものが無駄になることを惜しみ、限りある資源を大切にし、省資源や省エネルギーに取り組む、それが、「もったいない心」です。

リデュース（ごみの減量）・リユース（再使用）・リサイクル（再生利用）というこれまでの3Rに、リフューズ（ごみになるものを断る）、リペア（長期間使用するために修理する）、さらには、リニュー・アップル（環境にやさしい再生可能なものを使用する）といった新たな3つのRの視点を加え、廃棄物の排出を削減し、資源の有効利用を進めましょう。

【行動目標】

道民一人一日10%（80g）のごみを減らそう

3Rのさらなる展開など、「もの」を大切にし、ごみにしない、ごみを出さない取組を進めましょう。

私たちの身の回りにあるものは、たとえ今は新しくても、いずれは壊れたり、不要なものとなり、捨てられてしまいます。私たち道民は、一人一日あたり約800g（平成17年度）のごみを家庭から排出しています。

ごみの削減と資源の有効利用に向けて、「もの」を大切にし、ごみにしない、ごみを出さない取組を進め、一人一日あたり家庭ごみ排出量の10%（80g）の削減・リサイクルを目指します。

ごみの分別方法や資源回収品目は地域により異なりますので、削減目標は80g程度を目安として適宜設定してください。

【一人一日10%（80g）のごみの削減・リサイクルの効果】

全道民（560万人（H19））が取り組むと、全道で1日あたり約450トンのごみを削減・リサイクルできます。これは大型トラック（10トン車）約45台分に相当します。

道民が一人一日80gのごみを削減・リサイクル（50g削減 + 30gリサイクル）すると...

- ・「北海道廃棄物処理計画」に定める平成22年度の家庭ごみ排出量の目標を達成することができます。
- ・「北海道循環型社会推進基本計画」に定める平成22年度の一般廃棄物のリサイクル率の目標を達成することができます。

また、ごみを燃やすことによる二酸化炭素の排出量を、2Lペットボトル約7本分削減することができます。

【行動メニュー】

生ごみを減らそう

家庭で食べ残しを少なくする（2割カット）	17g	削減・リサイクル
家庭の生ごみを排出する場合は、よく水切りをする（5割）	12g	削減・リサイクル
家庭の生ごみを堆肥化して自家使用する（1割）	22g	削減・リサイクル

買い物するときに気をつけよう

買い物の際には、マイバッグを持参してレジ袋を削減する（1枚）	6g	削減・リサイクル
買い物の際には、過剰包装を断る	5g	削減・リサイクル

リサイクルを実践しよう

空き缶		
缶ビール（アルミ、350mL）		17g 削減・リサイクル
缶コーヒー（スチール、180mL）		33g 削減・リサイクル
ペットボトル、牛乳パック		
ペットボトル	2L	60g 削減・リサイクル
	500mL	28g 削減・リサイクル
牛乳パック	1L	26g 削減・リサイクル
	500mL	18g 削減・リサイクル
食品系の容器・包装		
ガムの箱（12粒入り程度）	紙製	4g 削減・リサイクル
お菓子箱（ビスケット70g入り）	紙製	26g 削減・リサイクル
お菓子袋（かき餅 g入り程度）	プラスチック製	4g 削減・リサイクル
とうふ容器（340g入り）	プラスチック製	11g 削減・リサイクル
きのこ包装	プラスチック製	3g 削減・リサイクル
いちご容器	プラスチック製	7g 削減・リサイクル
ミニトマト容器	プラスチック製	7g 削減・リサイクル
納豆容器	プラスチック製	2g 削減・リサイクル
米袋（5kg入り）	プラスチック製	25g 削減・リサイクル
食品トレイ	小	プラスチック製 3g 削減・リサイクル
	大	プラスチック製 5g 削減・リサイクル
ヨーグルト容器	500g入り	フタ：プラスチック製 容器：紙製 22g 削減・リサイクル
	85g入り	プラスチック製 7g 削減・リサイクル
プリン容器（80g入り）	プラスチック製	6g 削減・リサイクル
カップ焼きそば容器（130g入り）	フタ：紙製 容器：プラスチック製	15g 削減・リサイクル
カップラーメン容器	プラスチック製	10g 削減・リサイクル
幕の内弁当容器	プラスチック製	23g 削減・リサイクル
お茶袋（150g入り）	プラスチック製	6g 削減・リサイクル
紙パック酒容器（1.8L入り）	紙製	94g 削減・リサイクル
日曜雑貨		
シャンプー等容器 （ポンプ式、600mL入り）	プラスチック製	78g 削減・リサイクル
詰め替えシャンプー等袋（600mL入り）	プラスチック製	13g 削減・リサイクル
はみがき容器（140g入り）	プラスチック製	12g 削減・リサイクル
使い捨てカイロ袋	プラスチック製	1g 削減・リサイクル

ちり紙箱（1箱）	紙製	34g	削減・リサイクル
クリーニング用ハンガー	プラスチック製	36g	削減・リサイクル
乾電池	単 1	-	134g 削減・リサイクル
	単 3	-	24g 削減・リサイクル

詰め替え商品を購入しよう

シャンプー等が無くなったら、詰め替え商品を購入して、容器に詰め替える（ポンプ式、600mL）	65g	削減・リサイクル
--	-----	----------

このほかにも、リターナルビンを使用したり、古着を回収業者に回してリサイクルすることにより、ごみの削減・リサイクルに結びつけることができます。

また、ここに例示した数値はあくまでも目安であり、メーカーや材質等によって異なります。

【マイ・行動メニューの例】

(^^) / 主婦Dさん（50歳）

私は、食べ残しが多いので、気をつけます。また、家庭の主婦として、生ごみの削減・リサイクルに取り組みたいと思っています。買い物するときも、レジ袋をもらっていましたが、マイバッグを持って行くようにします。

家庭で食べ残しを少なくする（2割カット）	17g	削減・リサイクル
家庭の生ごみを排出する場合は、よく水切りをする（5割）	12g	削減・リサイクル
家庭の生ごみを堆肥化して自家使用する（1割）	22g	削減・リサイクル
買い物の際、マイバッグを持参してレジ袋を削減する（1枚）	6g	削減・リサイクル
買い物の際、過剰包装を断る	5g	削減・リサイクル
シャンプー等が無くなったら、詰め替え商品を購入して、容器に詰め替える（ポンプ式、600mL）	65g	削減・リサイクル
計	127g	削減・リサイクル

(^^) / 会社員Eさん（30歳）

私は分別がめんどろで、これまで牛乳パックやトレーなども可燃ごみで出していました。いろいろな容器を見てみると、リサイクルできるものが多いですね。

牛乳パック（1L）のリサイクル	26g	削減・リサイクル
納豆容器のリサイクル	2g	削減・リサイクル
食品トレー（大）のリサイクル	5g	削減・リサイクル
プリン容器（80g入り）のリサイクル	6g	削減・リサイクル
カップ焼きそば容器（130g入り）のリサイクル	15g	削減・リサイクル
ちり紙箱（1箱）のリサイクル	34g	削減・リサイクル
計	88g	削減・リサイクル

(^^) / 学生Fさん(18歳)

私がよく飲むもの、食べるもので取り組むとすると、缶コーヒーと清涼飲料水、ガム、お菓子といったところです。あまり手間もかからないので、これなら続けられそうです。

缶コーヒー(スチール、180mL)のリサイクル	33g	削減・リサイクル
ペットボトル(500mL)のリサイクル	28g	削減・リサイクル
ガムの箱(12粒入り程度)のリサイクル	4g	削減・リサイクル
お菓子箱(ビスケット70g入り)のリサイクル	26g	削減・リサイクル
計	91g	削減・リサイクル

【行動目標】

資源を地域内で循環する地産地消をすすめよう

地域の産業や特色を活かすなど地域ぐるみの資源循環の取組や、地域のバイオマスやエネルギー資源を利用したまちづくりを進めましょう。

本道は、風力、雪氷やバイオマスなど、再生可能なエネルギー資源に恵まれており、持続可能な社会を築きあげていく大きな可能性を秘めています。

地域の特色や地域の産業などに着目し、地域の住民、企業、民間団体、行政機関などが連携・協働して、資源循環の取組やバイオマス、再生可能エネルギー資源の利活用などに取り組むことにより、地域ぐるみでの継続的な環境保全活動の展開や環境に配慮したまちづくりを目指します。

【道内での主な取組事例】

道内には、道民、事業者、民間団体、行政機関等の各主体が連携・協働して、地域で環境保全活動に取り組んでいる事例が数多くあります。ここでは、その中から、事例をいくつか紹介します。

3Rの推進

【ごみ減量実践活動ネットワーク】(石狩)

札幌市では、市民、事業者、行政が一体となって市民の日常生活や企業の事業活動におけるごみの発生・排出抑制、再利用、リサイクル等のごみ減量につながる具体的な活動を展開することを目的に、平成17年に「さっぽろスリムネット」を設立。生ごみ減量、紙ごみ減量、容器包装減量、リユース実践、普及啓発の5つのプロジェクトを設置し、生ごみ堆肥化モデル実験、古紙回収ボックスの配置、街頭啓発アンケート、リユース広場の開催などを行っている。

食品系廃棄物のリサイクル

【生ごみの堆肥化】(石狩)

札幌市のモデル事業である「定山溪地区生ごみ堆肥化モデル事業」として平成18年にスタート。定山溪観光協会、定山溪温泉旅館組合、定山溪連合町内会及び札幌市で実行委員会を組織し、農協や農家などとの連携のもと、定山溪地区のホテル等から排出される生ごみを石狩市の生ごみ堆肥化施設で堆肥化して農家に提供、収穫した野菜を定山溪地区のホテルの食材として観光客に提供したり、地域の特産品として販売。現在、モデル事業の期間は終わったが、取組は継続されている。

【学校給食フードリサイクル】(石狩)

札幌市が子どもたちの食育・環境教育推進のために平成18年度から開始した学校給食フードリサイクルを、モデル校となった2校が実施した。学校給食の際に出た野菜の切りくずや給食の残さを分別・回収し、生ごみリサイクルセンターで堆肥化。堆肥は農家に運ばれ、栽培された野菜は再び学校給食の材料として使用される。また、堆肥は学校の教材園等でも使用され、子どもたちが野菜の栽培と調理を体験する。

【廃食用油の再資源化】(網走)

市民の有志が設立した会社が、市内の飲食店やホテルから廃食用油を回収し、バイオデ

ディーゼル燃料を精製。精製したバイオディーゼル燃料は特別医療法人の送迎車や、ごみ収集車、市の公用車で使用されている。また、バイオディーゼル燃料製造過程で発生する廃グリセリンを処理するため、専用の燃料ボイラーを開発した。

【サケ加工残さの有効利用】(網走)

斜里町では、第1次産業を活性化させるために農業協同組合と漁業協働組合が連携し、「食海土shari企画協議会」を平成7年に設立。斜里町で最も多く生産され、かつ再利用ができず資源になりにくい、水産加工場から廃棄される秋サケの残さに着目し、酵素を使用しない「100%天然素材の斜里町特産魚醤」を開発。ゼロエミッションと地域の活性化を進めている。

資源回収・リサイクル

【高齢者を中心とした資源リサイクル】(檜山)

奥尻町高齢者事業団は、容器包装リサイクル法の本格施行の6年前である平成3年の設立以来、空き缶等の資源ごみの収集、分別、減容の活動を実施している。本事業団の地道な活動により、町民全体の環境保全意識が格段に向上し、ポイ捨てされた空き缶など不法投棄された廃棄物の姿が目に見えて少なくなった。他方、本事業団の活動が高く評価されることが、そこで働く高齢者の生きがい増進となり、さらにリサイクル活動を活性化させるという善の循環が形成されつつある。

【資源集団回収】(十勝)

本別町では、自治会などの団体がまとまって、家庭から出る資源ごみを集める「資源集団回収事業」を行っている。対象となる資源ごみは、金属類、缶類、紙パック、ダンボール、新聞紙、雑誌類、びん類で、回収後は回収業者へ引き渡す。各自治会では、資源ごみをいつでも保管できるストックヤードを設けており、決められた曜日に、回収業者と共に収集を行う。このような取り組みにより、本別町のリサイクル率全道1位となった(平成16年度)。

バイオマスの利活用

【バイオマスネットワークの形成】(石狩)

生ごみを中心としたバイオマスの有効活用の方策を探るとともに、新エネルギーの利用や新産業を創出することを目指し、排出者や関係事業者等で構成する「石狩バイオマスネットワーク研究会」を平成17年に設立。

調査研究活動により家庭用廃食用油の回収事業が開始され、この取り組みを石狩管内に拡大するため、「いしかりエコ燃料プロジェクト」を発足させた。また、食品加工残さを利用したバイオマス事業の可能性調査なども進められている。

雪氷冷熱エネルギーの利用

【雪利用技術の研究・開発と雪利用普及】(空知)

産・学・官が協働して具体的な産業おこしに向けた研究活動を行うため、「美唄自然エネルギー研究会」を平成9年に設立。美唄市は、「美唄自然エネルギー研究会」と連携し、豪雪寒冷地域の固有な資源である雪の冷熱エネルギーの利用研究と多様な分野における技術開発・事業化を図っている。

具体化された事例には、賃貸マンション、老人福祉施設等への雪冷房システム導入や、米穀雪零温貯蔵施設など農業施設への雪の冷熱エネルギー導入などがある。その他、地産地消の取組である氷室を活用した「美唄雪蔵手前みそ仕込み」や、雪山イルミネーション、旭山動物園への雪プレゼントなども行っている。

【雪と共生するまちづくり】(空知)

沼田町では、雪と共生するまちづくりを目指して、「輝け雪のまち宣言」を平成14年に宣言した。平成8年、雪の冷熱エネルギーを活用して米を貯蔵する施設「スノークールライスファクトリー」を建設。そのほか、公共施設への雪冷房導入や、雪冷熱を活用した農作物栽培の実験等を進めている。また、学校教育の中にも沼田町独自に「利雪学習」を採り入れている。

雪利用の取り組みは町民にも広まり、雪中貯蔵した米、酒、みそなどの生産・販売や、農家では雪冷熱を活用した花きの栽培なども行なわれている。

風力発電

【市民風車による風力発電】

NPO法人北海道グリーンファンドが、月々の電気料金に5%を加算し、その5%分を市民による共同発電所建設のために運用(グリーン電気料金制度)している。2001年、総事業費の約8割を市民出資により賄い、日本で最初の市民風車「はまかぜ」ちゃんが浜頓別町で運転を開始。2005年には、石狩市で「かぜるちゃん」と「かんりんぷう」が運転を開始したほか、2007年12月にも新たな市民風車が石狩市で運転を開始している。

「流氷の保護」をキーワードとした環境保全活動

【オホーツク流氷トラスト運動】(網走)

地球温暖化の影響を強く受けるオホーツク地域が地球温暖化防止の警鐘を鳴らし、「流氷の保護」をキーワードに地域がひとつになって取り組む環境運動「オホーツク流氷トラスト運動」を展開。「オホーツク流氷の日」の制定や、観光事業者が連携し、環境に配慮した受入体制を整備する「旅エコプロジェクト」などを実施している。

この運動を通じて、地球温暖化防止をはじめとする環境保全活動を広く展開するとともに、取組を積極的にPRすることにより「環境先進地オホーツク」というクリーンなイメージを形成し、観光、農林水産物等のイメージアップを図り、地域の活性化を進めている。

【行動目標】

北海道をきれいにする清掃活動に参加しよう

道民、企業、民間団体、行政機関の連携による全道規模での清掃活動に積極的に参加し、ごみのないきれいなまちづくりに努めましょう。

まず、ごみを捨てないことが一番大切です。しかし、残念なことに、空き缶やたばこの吸い殻、レジ袋など多くのごみがポイ捨てされているのも事実です。

ごみ拾いは、いつでも、どこでも、だれにでも取り組める環境保全活動です。一人ひとりが拾える範囲には限りがありますが、道民、企業、民間団体、行政機関などが連携して、全道規模でごみ拾いを実施することにより、ごみが落ちていないクリーンな北海道を目指します。

【行動メニュー】

町内会、自治体、学校、企業などで実施している清掃活動に参加する
空き缶やたばこの吸い殻など、ごみのポイ捨てをしない
玄関前をきれいに清掃する
ごみを収集場所に出す時間を守る（前の日から出したりしない）
野外で活動するときは、ごみを持ち帰る

【道内での主な取組事例】

道内には、クリーンアップ活動に取り組んでいる事例が数多くあります。ここでは、その中から、道民、企業、民間団体、行政機関などの連携により全道規模で展開されている「ラブアース・クリーンアップin北海道」を紹介します。

【ラブアース・クリーンアップin北海道】

私たちの北海道を私たちの手で、世界一きれいな場所にする、全道一斉ごみ拾いのムーブメント「ラブアース・クリーンアップin北海道」。

地球の環境を大切にすることを「ごみ拾い」という、だれにでも参加できる、身近な行動で表現し、より良い北海道の環境を未来につなげていく、市民が主体となった取組。NPO法人北海道市民環境ネットワークの主催で、行政機関、財団法人、団体など多数の機関の後援・協力のもと開催されており、2008年度で5年目を迎える。

< 2008年度の活動 >

活動期間 4/22～6/30
メイン・デー 6/1（日） 北海道が一番きれいになる日

< 2007年度の活動結果 >

活動期間 4/22～6/30、
メイン・デー 6/3（日） 北海道が一番きれいになる日

参加状況

- 参加団体数：506団体
（企業、団体、NPO、小中学校、高校、大学、町内会、子ども会、ボラ

ンティアサークル、ボーイスカウト、ガールスカウト、児童館、消防クラブ、老人クラブ、商店街振興組合、障害者厚生施設、協議会、商工会議所、財団法人、市町村など)

- ・参加人数：23,682人
- ・協賛企業・団体・個人：30
- ・協力企業・団体・個人：16

実施結果 ごみ総重量：75,172.84 kg

参加した方々の声

- ・ホタルの生育地を守ることになるごみ集めは、夢があってよい。夏にホタルが舞うのが楽しみです。
- ・「こんなにごみがあるなんて・・・」「なぜ家のゴミが捨てられているのか？」等の感想がありました。自らの行動も考えよう！！
- ・人としてのモラルを改めて考えさせられる一日。地味な活動ですが清掃活動だけでなく、いろいろな部分に積極的に参加し続けていきたい。
- ・「自分たちの使う場所をきれいにしよう」に加え「自分たちの住む街をきれいにしよう」という意識も高まりました。
- ・子ども達からは最初「ごみが落ちてる」と言葉があったのですが、「捨ててある」に変わりました。大人のモラルの低下というかなしさに心が痛みました。
- ・子ども、大学生、おじ(い)さん、おば(あ)さんの三世代で交流しながら、楽しく地球を愛することができた。ぼくが大人になったらちゃんとゴミを持って帰って札幌をきれいにする。
- ・自分たちの住んでる町をきれいにしてるんだあ～と感じました。

など

自然と共生する心

自然や森林を守り育み、自然と調和して生きる、それが「自然と共生する心」です。

知床世界自然遺産をはじめとする原生的な自然から身近にある森や川などまでしっかり守るとともに、自然のしくみをよく理解し、自然の恵みを賢く利用しましょう。

【行動目標】

自然のすばらしさにふれ、 身近な川や湖などを守る環境保全活動に参加しよう

自然観察会や自然公園の美化清掃への参加などを通じて、自然のすばらしさを理解し、さわやかな空気、水、多様な野生生物など豊かな自然環境を守るとともに、住民参加型の環境モニタリングや水環境保全講習会に参加するなどして、健全な水循環を支える水質保全活動を進めましょう。

すぐれた自然環境や身近なみどりは、私たちにうるおいや安らぎをもたらすだけでなく、さまざまな生き物の生息の場、また、大気の浄化や気温上昇の抑制、二酸化炭素の吸収、災害の防止など、多くの重要な役割を果たしています。また、水は、自然環境や私たちの生活を支える基本的な要素で、海、大気、河川等を巡る水の循環は、水質の浄化や生態系の保全に大きな役割を果たしています。

一方、私たちは、日常生活や経済活動における水の使用、汚水や廃棄物の排出などにより、自然環境に負荷を与えています。

私たち一人ひとりが、身近なみどりを育て、自然や水とふれあい、日常生活やレジャーにおいて水、大気、動植物等への負荷の低減等に配慮した行動を実践するとともに、環境保全活動を進め、本道の豊かな自然環境の保全と健全な水循環の確保を目指します。

【行動メニュー】

身近なみどりの育成、自然とのふれあいを進めよう

庭木や生け垣などみどりを育てる
家の前の街路樹などへの水やり、手入れを行う
自然観察会やバードウォッチングへの参加などにより身近な自然とふれあう
市民農園などで土やみどりとのふれあいを体験する
通学や通勤など日常生活において身の回りの自然に目を向ける

自然環境を守ろう

野生動物には、むやみに近づかない、エサを与えない
ペット等を自然に放さない
外来生物を自然に放したり、植えたりしない
自然公園などでは、むやみに動植物をとらない

自然の中では、むやみに大声や騒音を出さない。
自然の中では、決められた場所以外でのたき火を行わない
登山のときには、携帯用トイレを使う
登山道や散策道から外れて歩かない
野外へ出かけたときは、ごみのポイ捨てはしない
釣りをするときには、釣り針やテグスを川や海に捨てない
外来魚を釣ったときは、再放流しない
道路、広場等以外では、RV車、スノーモービルなどのむやみな使用をやめる
動物注意の標識のある道路では、野生動物の飛び出しに注意し、車の速度を落とす
鳥類の衝突の多い大きな窓ガラスには、鳥類の衝突防止のため、格子状の目印や猛禽類の絵柄のシールを貼る
地域の自然環境保全の取組に参加する

大気環境を保全しよう

車両の運転を見直そう
車をなるべく使わない
エコドライブを行う (例)
<ul style="list-style-type: none"> ・アイドリングストップを行う ・発進時にはアクセルをふんわりと踏む ・車間距離に余裕をもって加速の少ない運転をする ・止まるときは早めにアクセルから足を離す ・カーエアコンの温度・風量をこまめに調節する ・暖気運転の時間はなるべく少なくする ・出かける前にあらかじめ行き先や走行ルートを計画する ・タイヤの空気圧をこまめにチェックする ・不要な荷物を積まない ・交通の妨げになる違法駐車をやめる

水環境を保全しよう

身近な河川に関心をもとう
近くの川に行ってみる、河畔を散歩してみる、写真を撮ってみる
近くの川にどんな動植物が生息・生育しているか「見て」・「聞いて」・「調べて」みる
市町村や市民団体などに、河川をきれいにする取り組みについて聞いてみる
市町村や市民団体などが行っている水と親しむイベントや自然観察会などに参加してみる
環境保全活動に参加しよう
住民参加型の環境モニタリングや水環境保全講習会などに参加する
日常生活での水の使用や排水に気をつけよう
水道水の出しっ放しはしない
水切りネットや排水口ネットの使用により排水から固形物を除去する
油やソースなどは紙や古着で拭き取ってから洗う
洗剤は適正量を使用する
使用済みの油は回収するか凝固剤などにより処理し、排水口に流さない

適切な排水対策をとろう

生活排水が直接河川等へ流出しないよう浄化槽設置などの対策を講じる
下水道区域にある場合には、下水道へ接続する

【道内での主な取組事例】

道内には、道民、事業者、民間団体、行政機関等の各主体が連携、協働して、地域で環境保全活動に取り組んでいる事例が数多くあります。ここでは、その中から、いくつかの事例を紹介します。

【茨戸川清流ルネッサンスII】(石狩)

平成13年度に茨戸川及び札幌北部地区河川が、国土交通省の進める『第二期水環境改善緊急行動計画(清流ルネッサンスII)』の計画対象河川に選定されたことから、茨戸川などに良好な水環境を創造するための施策を総合的に検討することを目的として、「茨戸川ルネッサンスII地域協議会」が設立された。

協議会は学識者、NPO、地域住民、河川管理者、下水道管理者などにより構成され、河川事業や下水道事業のほか、NPO、民間企業、流域住民、行政機関などの協働による河川清掃活動や河畔への植栽、河川環境のモニターなどの取組や、自然観察会の実施、小学校への環境副教材の配布等の普及啓発などを進めている。

【流域連携による尻別川流域の保全】(後志)

尻別川とその流域において、水環境の保全と創造、地域の歴史や文化の涵養と愛護をとおり、市民を中心に産・官・学が垣根を越えてコミュニケーションを深め、豊かで特色ある健全な流域社会をつくることを目的に、尻別川流域住民の有志が中心となって、平成8年に「しつべつりバーネット」を設立。平成12年にNPO法人化。

ニセコ町にある「みらいの森」や尻別川河畔での植林・育林のほか、流域の関係機関と連携して清掃活動を行う「尻別川クリーン作戦」などを展開している。

【アポイ岳の再生】(日高)

日高山脈襟裳国定公園のアポイ岳において、自然の遷移と盗掘により劣化と衰退が進んでいるヒダカソウなどの高山植物群落を、特別天然記念物に指定された1952年当時の姿に再生することを目的に、アポイ岳ファンクラブ、様似町、教育委員会、関係機関、研究者などで構成する「カムバック1952アポイ岳再生委員会」を平成17年に設立。森林所有者の協力を得ながら、民間主体による自然再生の取組が進められている。

【自然の番人宣言】(釧路)

釧路圏域に住む人が自ら「自然の番人」として不法投棄やポイ捨てに目を光らせ、釧路湿原国立公園、阿寒国立公園、厚岸道立自然公園をはじめとする貴重な自然環境を守り、次世代に引き継いでいくため、平成18年に釧路支庁管内全市町村が共同で「自然の番人宣言」を制定(道内初)。支庁と市町村が連携し、合同パトロール、不法投棄ごみの回収、講演会等の普及啓発活動を実施しているほか、民間では賛同企業が宣言し、社用車へのステッカーの貼付などの取り組みを実施している。

【ねむろ自然の番人宣言】(根室)

根室支庁管内の貴重な自然を、廃棄物の不法投棄やごみのポイ捨てから守り後世に引き継ぐため、管内の住民が自ら「自然の番人」になって行動する「ねむろ自然の番人宣言」を平成20年2月、根室支庁管内各市町が調印。推進委員会を設置し、一斉清掃、パトロール等の取り組みやポスター、ビラ、車両ステッカー等による啓発運動を根室支庁と協力して展開することとしている。

また、民間業者や町内会などにも「番人宣言」に参加するよう呼びかける。

【行動目標】

環境と調和した農林水産業や観光業をすすめよう

自然環境と最も密接に関係する産業分野である農林水産業や観光業において、環境保全型農業や自然環境の保全に配慮した観光の推進など環境負荷を最小限にする環境配慮に努めましょう。

北海道の基幹産業である農林水産業は、最も直接的に自然環境に関係する産業分野です。また、観光産業などは、豊かな自然環境を資源とする反面、事業活動が環境に与える影響について十分に配慮する必要があります。

このため、環境に与える負荷をできるだけ低減するとともに、自然環境を守り、野生生物との良好な関係づくりに努めるなど、積極的に環境保全に取り組む環境と調和した産業の展開を目指します。

【主な行動】

農業関係

有機質肥料の使用や施肥法の改善により、化学肥料の使用量をできるだけ少なくする
病害虫の効率的な防除法や化学合成農薬以外の防除技術の導入などにより、化学合成農薬の使用量をできるだけ少なくする
「北のクリーン農産物（Yes!clean）表示制度」に登録し、環境への負荷を低減した農産物を生産する
化学肥料や農薬を基本的に使用しない有機農業による農産物の生産を進める
家畜ふん尿等のバイオマスは、肥料化、飼料化、エネルギー化などにより循環利用する
農業用廃プラスチックは回収し、リサイクルする
農業機器・車両等の導入にあたっては、省エネルギー型のものを選定する
農薬以外の病害虫防除法や家畜ふん尿の利活用方法など、環境負荷を低減する技術を研究開発する
野生動物との不要な衝突を防止するため、野生動物を誘引するような規格外品などを野外に放置しない
野生動物の農地への侵入を防止するため、農地と森林との間に電気柵や緩衝地帯を設ける
農作物の受粉用にセイヨウオオマルハナバチを用いる場合は、逃げ出さないようにする。

その他、オフィスや事業所における省エネルギーや省資源の取り組みについては、「行動目標」の【主な行動】をご参照ください。

林業関係

森林認証を取得し、適切な森林管理を行う
育成途上の森林の保育・間伐や、伐採跡地への植栽などにより持続的な森林経営を進める
荒廃した里山の再生や、未立木地や耕作放棄地等の整備を行う
森林整備のための作業道は、効率性や環境負荷を考慮して開設する

切捨て間伐材や林地残材などの未利用資源は、エネルギーとして循環利用する
環境への負荷の少ない機械作業システムを構築する
林業用機器・車両等の導入にあたっては、省エネルギー型のものを選定する
森林づくりや森林バイオマス利活用に係る技術など、環境保全と環境負荷の低減に貢献する技術を研究開発する

その他、オフィスや事業所における省エネルギーや省資源の取り組みについては、「行動目標」の【主な行動】をご参照ください。

漁業関係

ホタテ貝殻や漁具・漁網など、水産系廃棄物の循環利用を進める
種苗放流や資源管理など水産資源の持続的利用に取り組む
環境に配慮した持続的な漁業を証明するMSC（海洋管理協議会）漁業認証など、水産エコラベルの取得を進める
藻場や干潟の維持・拡大を進める
漁業用機器・漁船等の導入にあたっては、省エネルギー型のものを選定する
漁場環境の保全や水産系廃棄物の循環利用に係る技術など、環境保全と環境負荷の低減に貢献する技術を研究開発する

その他、オフィスや事業所における省エネルギーや省資源の取り組みについては、「行動目標」の【主な行動】をご参照ください。

観光関係

施設の設置にあたっては、自然環境の保全や自然景観との調和に配慮する
地域の特性を活かしたグリーンツーリズムやマリンツーリズム、エコツーリズムなど体験型観光を展開する
ツアー参加者への環境保全意識の普及を図る

その他、ホテル・旅館、飲食・販売店、運輸会社等、観光に係る事業活動における省エネルギーや省資源の取り組みについては、「行動目標」の【主な行動】を、自然環境の保全の取組については、「行動目標」の【行動メニュー】及び【取組事例】をご参照ください。

参 考 资 料

北海道の環境の概況について

1 北海道の地勢・気候

日本で2番目に大きい島、広大な土地

- ・本州に次いで2番目に大きい島で、国土の約22%を占める
- ・面積は、83,456km²で都道府県の中で面積が最も広く、東京都の約40倍
- ・山地は全体のほぼ半分を占めるが、全国と比較するとなだらかな土地が多い

冷涼低湿な気候と明瞭な四季の変化

- ・冷涼低湿で梅雨はなく、オホーツク海には冬季に流氷が観測される
- ・温帯気候の北限であると同時に亜寒帯の南限に位置し、明瞭な四季がある
- ・年平均気温は6～10 程度、年平均降水量は800～1,500 mm 程度

豊かな森林と澄んだ水

- ・北海道の森林面積は554万haで全道面積の71%で、全国の森林面積のおよそ4分の1を占める。
- ・豊富な水量、良好な水質の14,700余りの河川や美しい湖沼
(全国河川水質ランキング9のうち4河川が全国最高水準)

2 豊かで恵まれた自然環境

知床世界自然遺産地域と自然公園

- ・平成17年7月に世界自然遺産に登録された知床が東部に位置
- ・6つの国立公園、5つの国定公園、12の道立自然公園を有し、
- ・その総面積は約86万haで全国の自然公園面積の約16%を占める

多様な生態系を有する自然の宝庫

- ・津軽海峡を横切るブラキストン線で北方特有の多様な野生生物が存在
(ヒグマ、エゾシカ、シマフクロウ、タンチョウなど)
- ・日本初のラムサール条約登録湿地の釧路湿原を含む12ヶ所の登録湿地

【北海道のシンボル】

北海道の鳥：タンチョウ（純白、優雅、気品が高い）

北海道の木：エゾマツ（雄大な樹形、野生的風格）

北海道の花：ハマナス（鮮やかなピンクの花、野性的で力強い）

3 環境の状況と取組み

【北海道の環境状況の変遷】

	30年頃前 (1971～1979)	現在 (2002～2005)	備考
二酸化硫黄濃度 (大気汚染の指標)	0.014 ppm (1975)	0.003ppm (2005)	大幅な改善 環境基準0.1ppm
環境基準達成率 (水域)	79.6% (1976)	86.8% (2005)	約7%上昇
上水道普及率	80.8% (1973)	97.2% (2004)	高普及率の水準を維持
下水道普及率	20.3% (1976)	87.3% (2005)	普及率の大幅アップ
一般廃棄物排出量	1,600g/人・日 (1979)	1,221g/人・日 (2005)	リサイクルなどにより 減少傾向
産業廃棄物排出量	23,880千トン (1971)	41,061千トン (2002)	増加傾向
二酸化炭素排出量	3.1トンC/人 (1990)	3.6トンC/人 (2003)	増加傾向
自然公園等面積	737千ha (1973)	897千ha (2005)	約20%の増加

【北海道における主な環境の最新状況】

地球温暖化防止対策(2003年度)

温室効果ガス排出量

- ・総排出量 1990年度比 14.2%増加
- ・差引排出量 1990年度比 2.9%増加

*目標(2010年度):差引排出量を1990年度比で9.2%減

道民一人当たりの二酸化炭素排出量 3.62トンC/人

*全国平均の約1.3倍

民生(家庭)部門の排出割合も全国に比べて高い

*全国:13.5%、北海道:20.5%

道内一次エネルギー総供給量のうち化石燃料によらないものは、
全体の14.9%(平成16年度北海道エネルギー需給バランス表)

〔 石炭系:20.6%、石油系:63.0%、天然ガス等:1.6%
水力:0.7%、原子力:7.0%、新エネルギー等:7.2% 〕

廃棄物対策・リサイクルの推進

道民一人一日当たりごみ（一般廃棄物）排出量：1,221 g / 人・日（2005年度）

* 全国平均（1,131 g / 人・日）よりも8%程度多い

* リサイクル率（2005年度：17.2%）は全国平均（2005年度：19.0%）より低い

産業廃棄物排出量：41,061千トン（2002年度）

* 全国の約1割

* 排出量の半分は動物のふん尿

* 再生利用率は約51%

自然環境の保全、野生生物の保護管理（2006年度）

自然公園及び自然環境保全地域等の面積：897千ha

自然公園箇所数：23箇所、自然環境保全地域：182箇所

鳥獣保護区面積：391千ha

エゾシカ捕獲数：オス 約28,000頭、メス 約42,000頭

アライグマの目撃・捕獲実績：120市町村

水環境の保全

環境基準の達成率（2006年度）

・河川：96.8%

・湖沼：45.5%

・海域：76.9%

・地下水：96.7%

【本道における先進的な環境の取組】

これまでの実績

- ・全国に先駆けて森林づくり条例を制定し、道民との協働による森づくりを推進
- ・都道府県で全国初の環境アセスメント条例の制定
- ・国の法令に先駆けた「北海道脱スパイクタイヤ推進条例」の制定による粉塵問題の解消
- ・イトムカ地域における全国をカバーする乾電池・水銀回収・リサイクル事業
- ・都道府県で先駆けた自然環境保全に関する研究部門の設置

現在実施中のもの

- ・循環資源利用促進税を活用したリサイクル産業の支援事業
- ・北海道リサイクルブランド認定事業
- ・キッズISO14000プログラム事業
- ・知床及び周辺地域における広域的エコツーリズム推進事業
- ・釧路湿原地域における自然再生事業やエゾシカの保護管理に関する事業

4 北海道の強みと可能性

豊かな自然の資源

- ・ 全国平均を大幅に上回る（約3倍）「一人当り水資源賦存量」10,135m³/人・年
- ・ 二酸化炭素の吸収貯蔵源となり、緑のダムとして水を蓄える森林が豊富で、道民一人当たりの森林面積は1ha（全国平均の約5倍）
- ・ 水の郷百選の指定を受ける名水・おいしい水・清浄な水が豊富

多様で豊富なエネルギー資源

- ・ 森林や農産物等に由来する多様なバイオマスが豊富で再生可能なエネルギー資源として利用の可能性大
- ・ 風力エネルギー資源が豊富であり、全国最大の風力発電地域
- ・ 冷房などに利用可能なエネルギー資源として雪氷が豊富
- ・ 苫小牧市勇払地区には全国有数の天然ガス田が存在

北海道の特性に応じた技術の活用

- ・ 知の拠点となる「リサーチ&ビジネスパーク構想」による研究機関が集積
- ・ 鉄鋼、セメント業などリサイクル産業に応用できる技術が集積
- ・ 二酸化炭素排出量を増加させないバイオエタノールやBDFなど輸送用エコ燃料の製造技術の研究開発が進展
- ・ 発電時にCO₂を排出しない燃料電池の技術開発やコジェネレーションシステムへの応用に向けての研究が進展
- ・ 高断熱・高气密化によりエネルギーの利用効率を高める北方型住宅
- ・ エネルギーの利用効率が高いDMV（デュアル・モード・ビークル）
- ・ 長距離走行時の二酸化炭素削減効果に優れたクリーンディーゼル車

環境と調和した産業の展開

- ・ 美しい自然景観や自然と調和した美しい農山漁村の景観の活用
- ・ 豊かな自然を活かしたエコツーリズムの展開
- ・ 循環と共生の考え方にたって環境負荷の軽減に配慮した環境保全型農業の展開
- ・ 人工林資源の維持・増進に向けた伐採後の植林などによる林業再生の展開
- ・ 水産系廃棄物の再生利用や適正処理など環境に配慮した水産業の展開

将来性のある風土と気質

- ・ 自然の恵みとともに生きてきた先人の知恵と情熱を引き継ぐ風土
- ・ 冬や雪のハンディを克服する工夫や仕組みを築きあげてきた風土
- ・ フロンティア精神に基づくおおらかで挑戦意欲旺盛な道民の気質
- ・ 海外からの技術を取り入れてきた経験と開放的で寛容な気風